

令和6年度 西北小学力向上プラン

長崎市第五次総合計画

基本施策 G1「長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます」

G1-1 確かな学力の向上

G1-2 健やかな体と心の育成

G1-3 学校・家庭・地域の連携による教育の充実

G1-4 子どもが安全安心に学べる教育環境の整備

学力に関する児童の課題

- 学力調査において、全国・県・市平均と比較して全体的に正答率が高いが、低位児童の引き上げが必要である。
- 国語科の学力調査において「条件作文」の正答率が低く、「書くこと」に課題が見られる。
- 算数科の学力調査において答えは正解だが、説明ができない。
- 学力調査において、最後の設問で無答が一定数ある。

学校教育目標

自ら考え、共に生き、自分づくりに取り組む西北の子

めざす児童像

大すきいっぱい西北っ子～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和6年度 学力向上目標

- 令和6年度の全国学力・県学力・市学力テストにおいて県の平均+5ポイントを目指す。
- 各学期末における確認テスト（国語・算数）において「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」のそれぞれの項目に、以下に示す学年の数値目標達成を目指す。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知・技	95	90	90	90	85	85
思・判・表	90	90	85	85	80	80

目標達成へ向けた取組～研究主題「夢中になって学びに向かう児童の育成」～

N	粘り強く取り組み自分を律する子	S	主人公となって学習を進める子	K	客観的に自分を把握できる子	T	他者との関わりの中で成長する子
授業での学び（授業改善）		子ども自身による学びのマネジメント			授業外での学び（家庭学習の充実）		
○児童が主体的に学べる課題設定 ○児童が夢中になって学び続ける授業展開の考察 ○自己判断・自己選択できる授業づくり ○他者とのかかわりの中で自分の考えを表現する場の設定 ○客観的な自己学習状況把握の場の設定		○学習状況把握を通しての学習者としての自己理解 →学習前後で自己理解の場を設定 →一単位時間での振り返りの充実 ○選択性のある宿題をとおして客観的に自分を把握させる。 ○学習内での対話を通して、学びを自分事と捉える。			○机に向かう習慣を付けさせる。 ○キュービナの活用をとおして児童一人一人の自己調整力を高める ○家庭学習への取り組み状況を家庭と共有し、連携を図る。 ○授業外へ学びを広げる振り返りの充実		

目標達成へ向けた取組～学びを支える素地づくり～

学級経営	読書活動
○支持的風土を構築し協働的・対話的学びを促進する。 ○道徳教育・人権教育を学級経営の中心に据える。	○読書活動の推進⇒読書企画による意欲喚起 ○読書週間の重点的な取組

